

2.5 水質調査

2.5.1 調査概要

水質調査は表 2.5.1 に示す日程で実施した。

表 2.5.1 水質調査の実施日

秋季	平成 29 年 11 月 8 日
冬季	平成 30 年 1 月 22 日
春季	平成 30 年 3 月 19 日
夏期	平成 30 年 8 月 2 日

朝明川河口部干潟近傍には-7.5m の航路、泊地があり、夏季における下層の貧酸素化と、当該水塊の浅瀬への進入による底生生物への影響が懸念されることから、本調査では、St. 1～St. 6 に加え、-7.5m 航路近傍に鉛直連続測定点を設置し、他地点と同様の項目について測定を行った。

St. 1～St. 6、鉛直連続測定点におけるクロロフィル (Chl-Flu)、溶存酸素 (DO)、水素イオン濃度 (pH)、濁度、塩分濃度、水温の現地調査結果を図 2.5.1～図 2.5.4 に示す。



図 2.5.1 (1) 水質現地調査結果(平成 29 年度秋季)

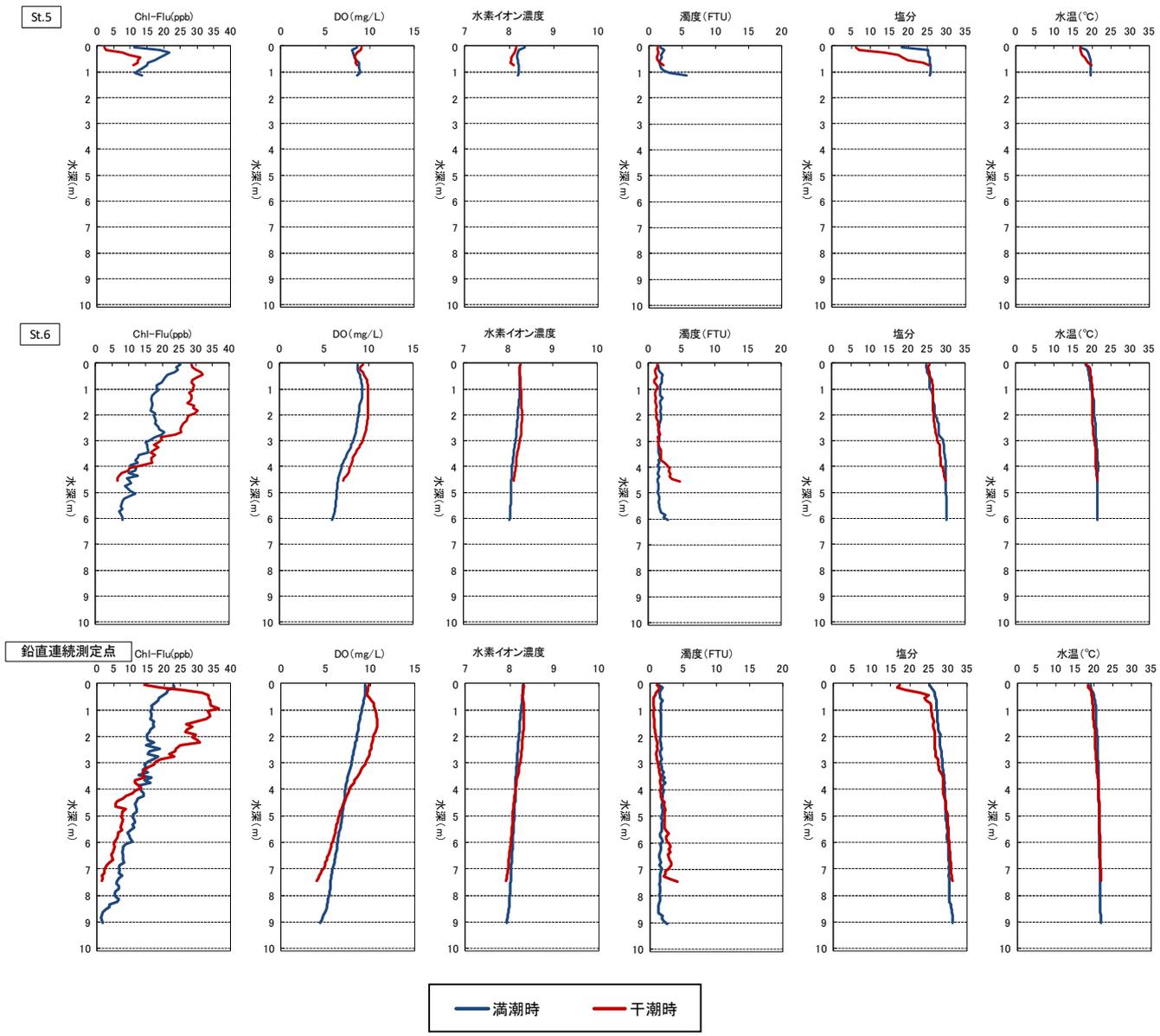
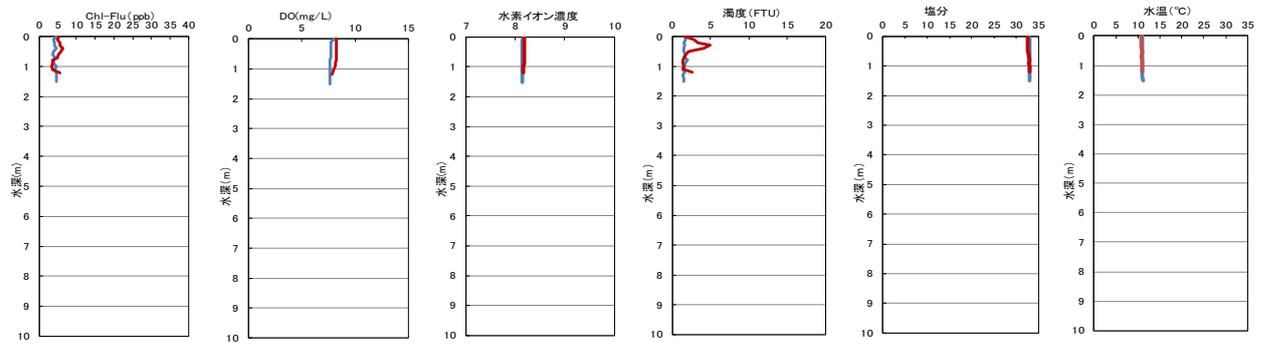
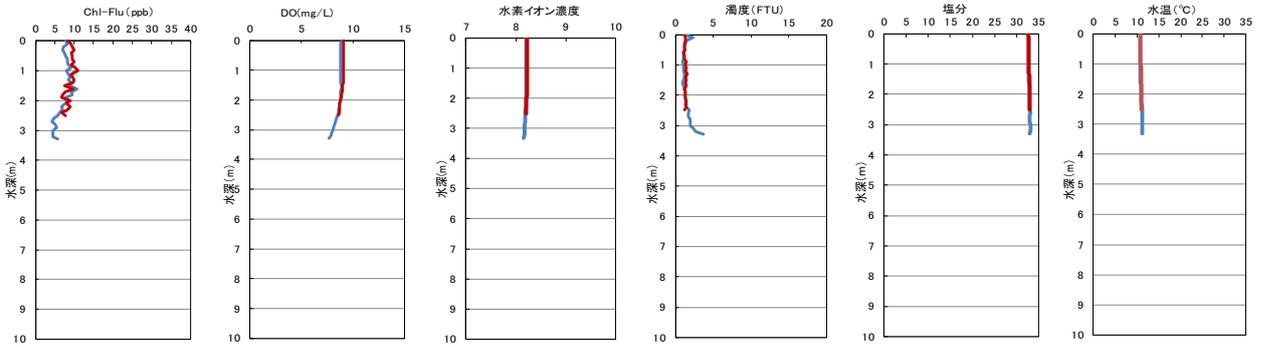


図 2.5.1 (2) 水質現地調査結果(平成 29 年度秋季)

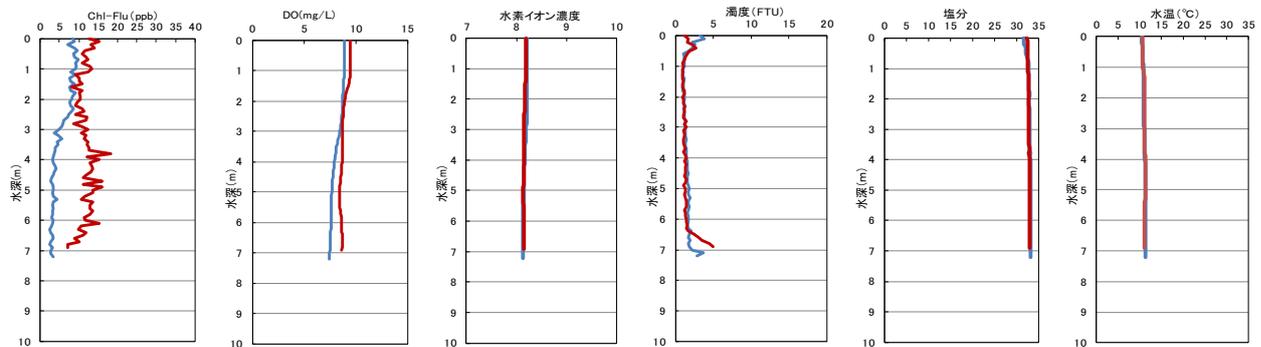
St.1



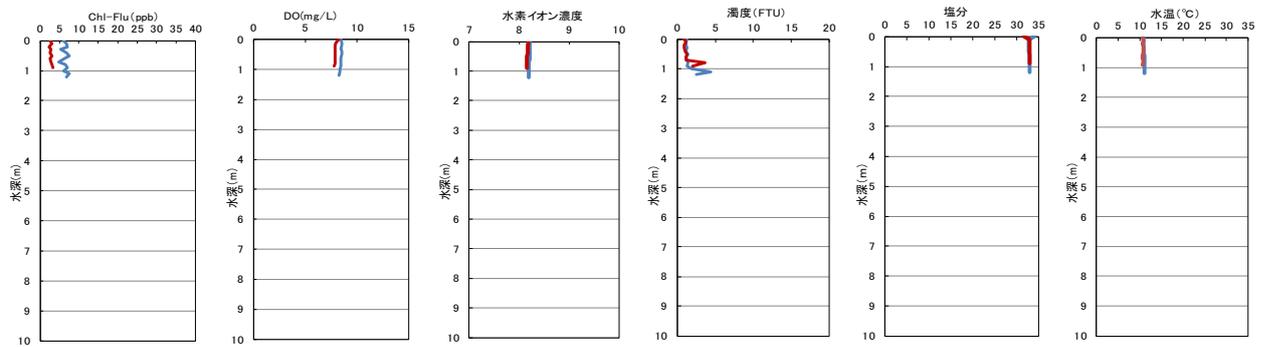
St.2



St.3



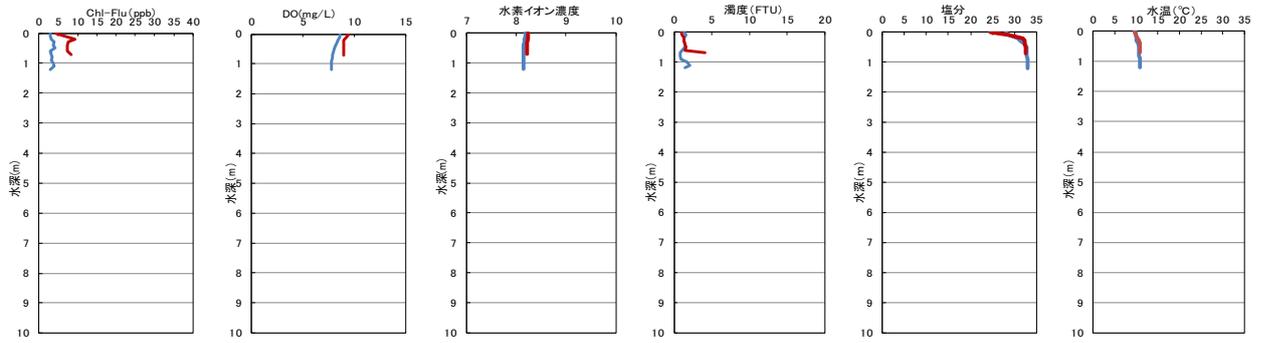
St.4



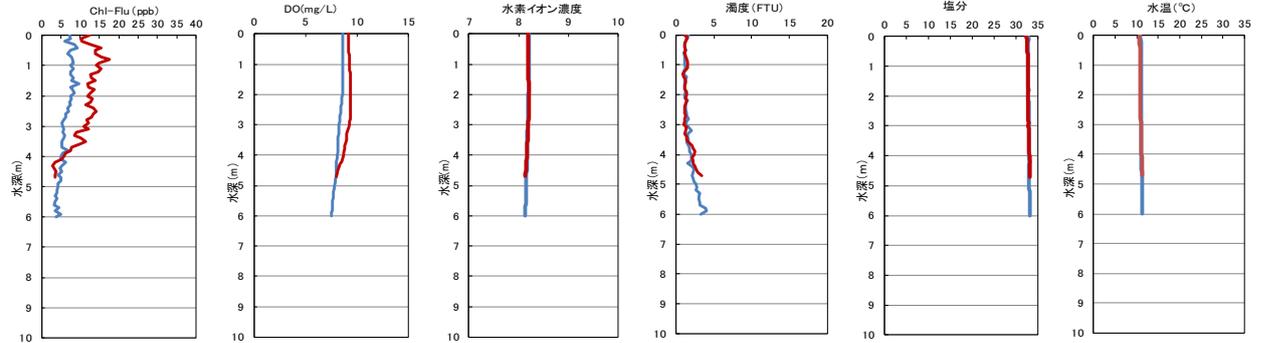
— 満潮時 — 干潮時

図 2.5.2 (1) 水質現地調査結果(平成 29 年度冬季)

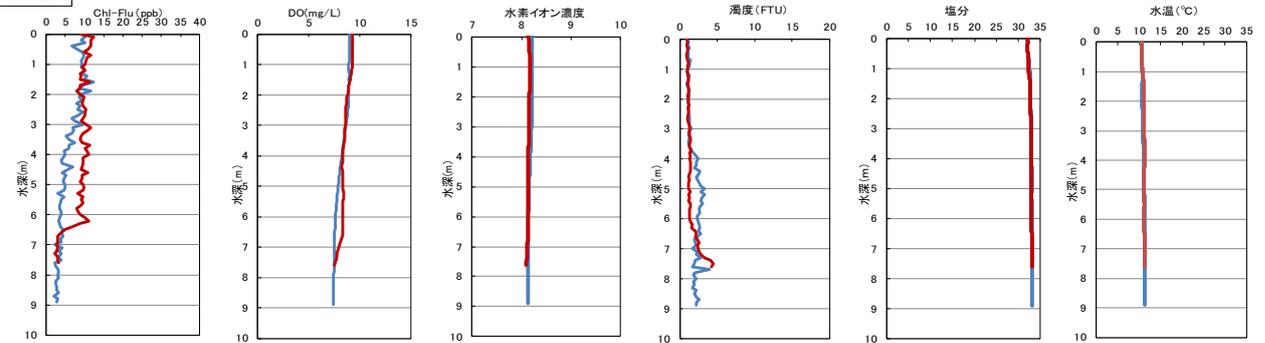
St.5



St.6



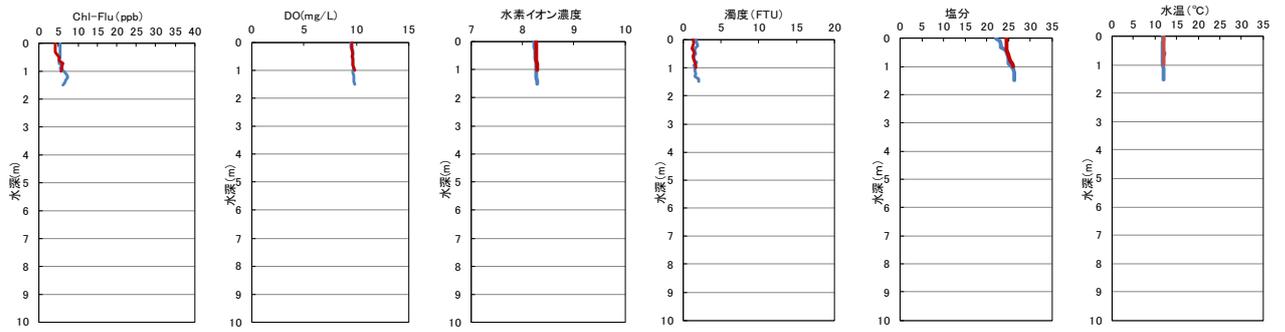
鉛直連続測定点



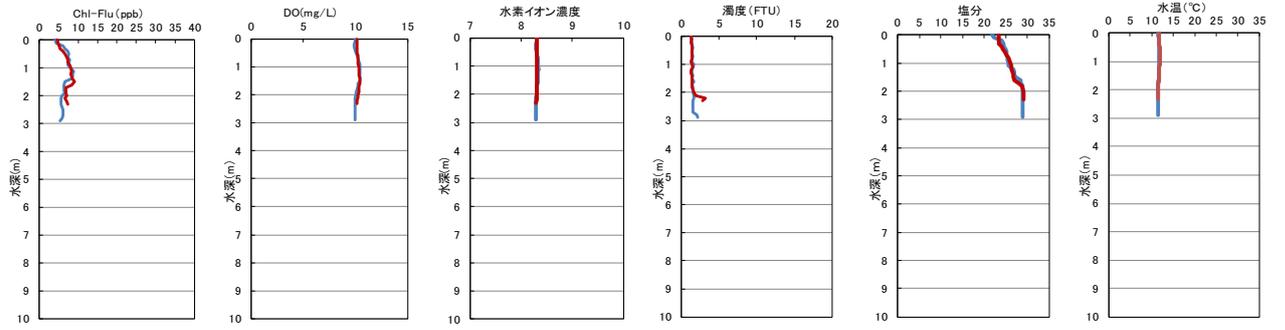
— 満潮時 — 干潮時

図 2.5.2 (2) 水質現地調査結果(平成 29 年度冬季)

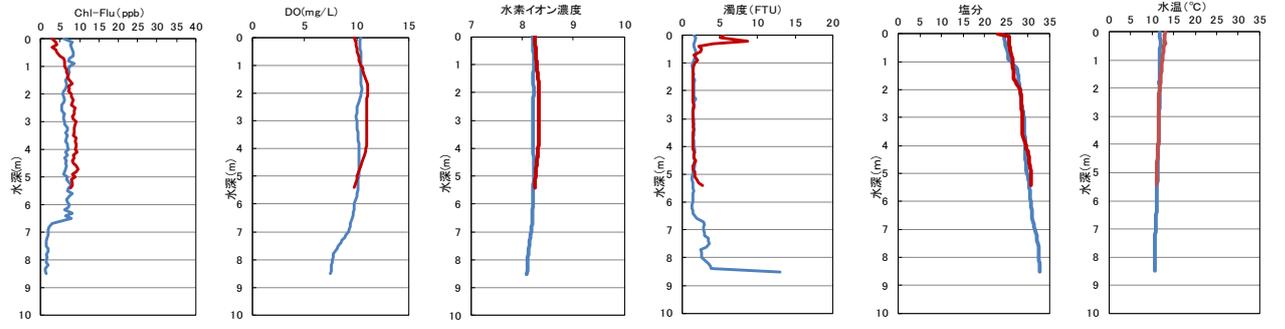
St.1



St.2



St.3



St.4

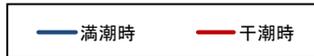
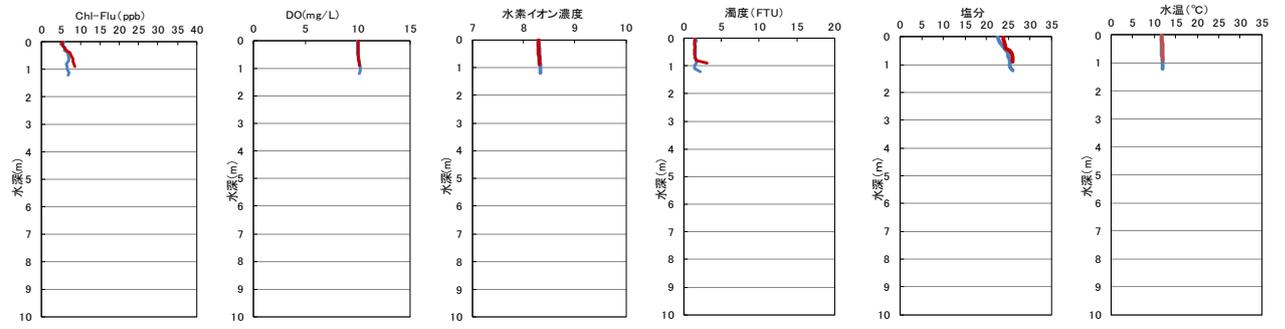
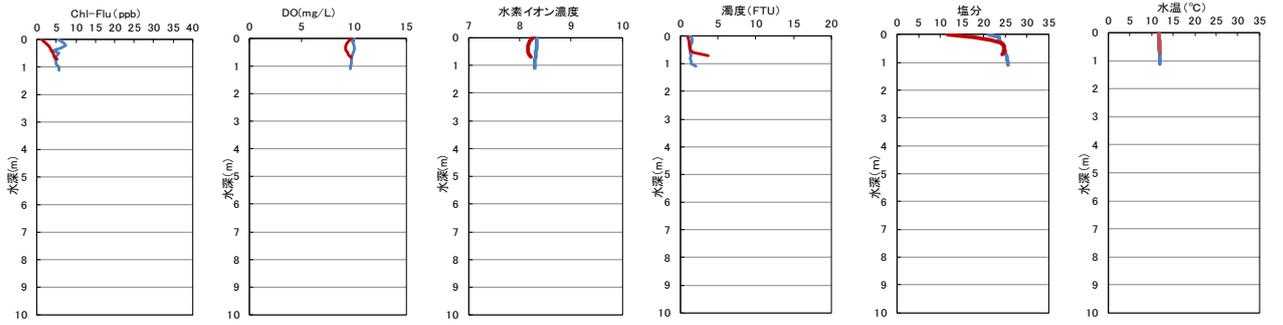
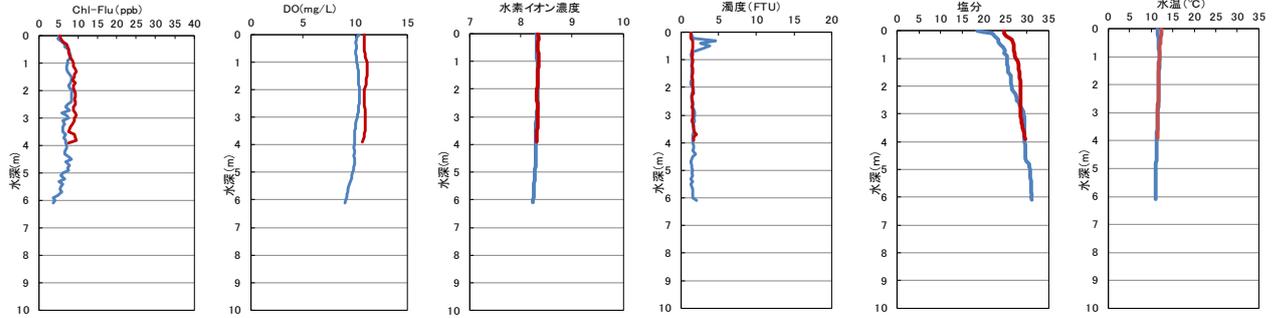


図 2.5.3 (1) 水質現地調査結果(平成 30 年度春季)

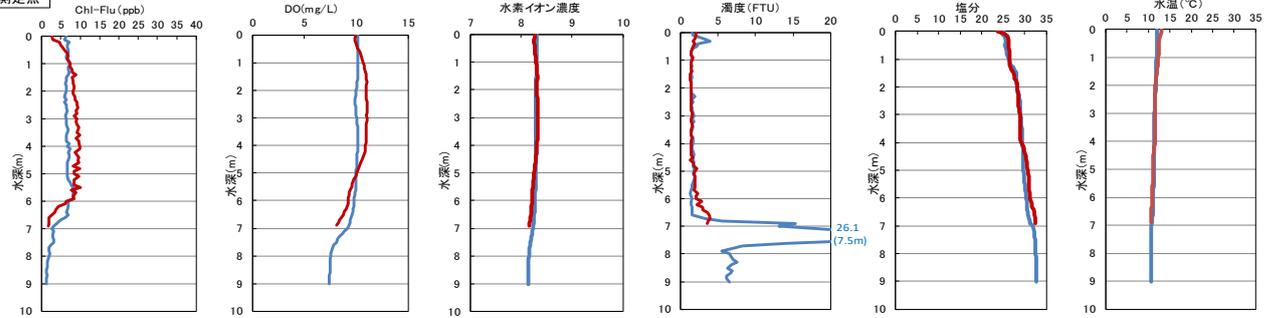
St.5



St.6



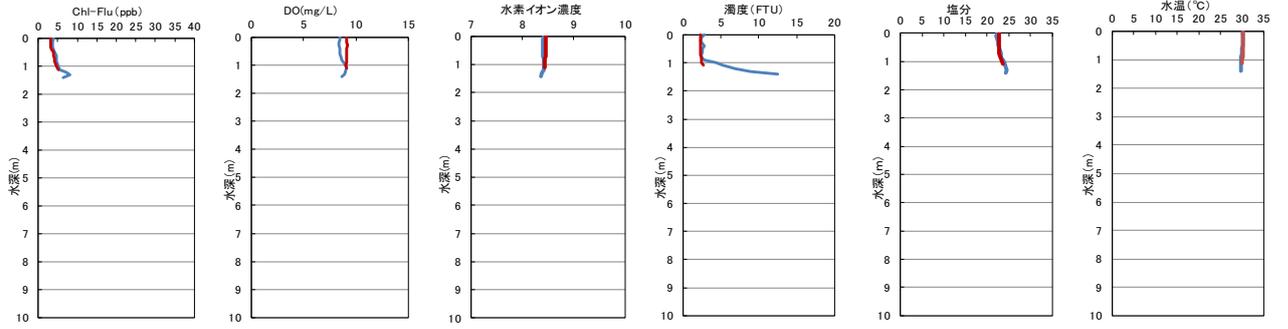
鉛直連続測定点



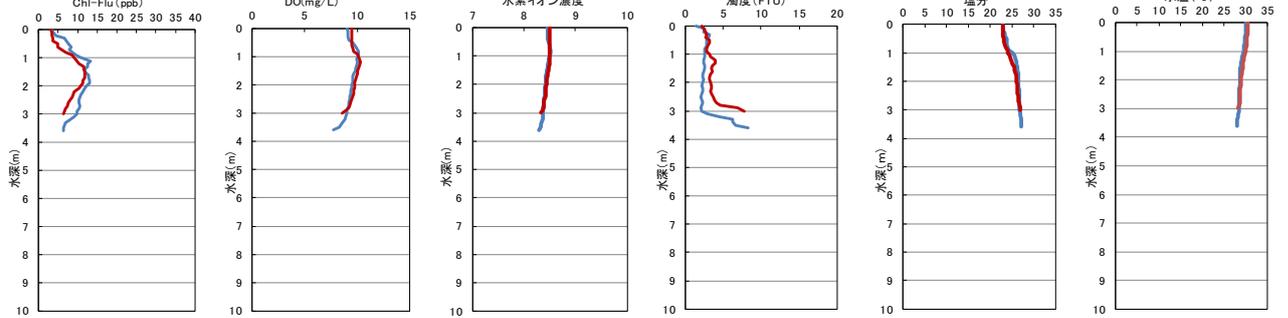
— 満潮時 — 干潮時

図 2.5.3 (2) 水質現地調査結果(平成 30 年度春季)

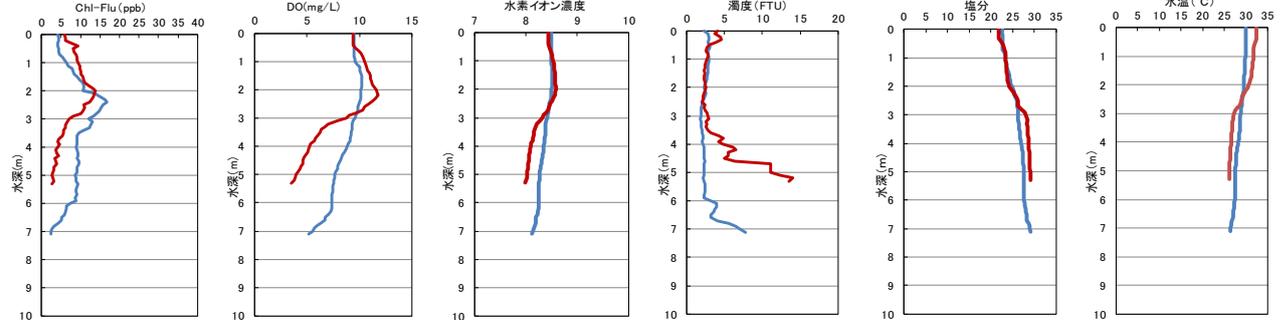
St.1



St.2



St.3



St.4

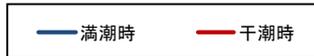
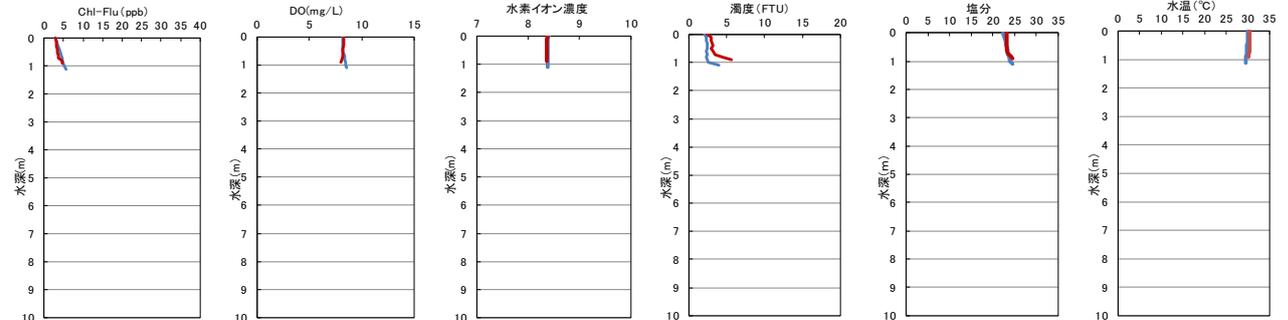


図 2.5.4 (1) 水質現地調査結果(平成 30 年度夏季)

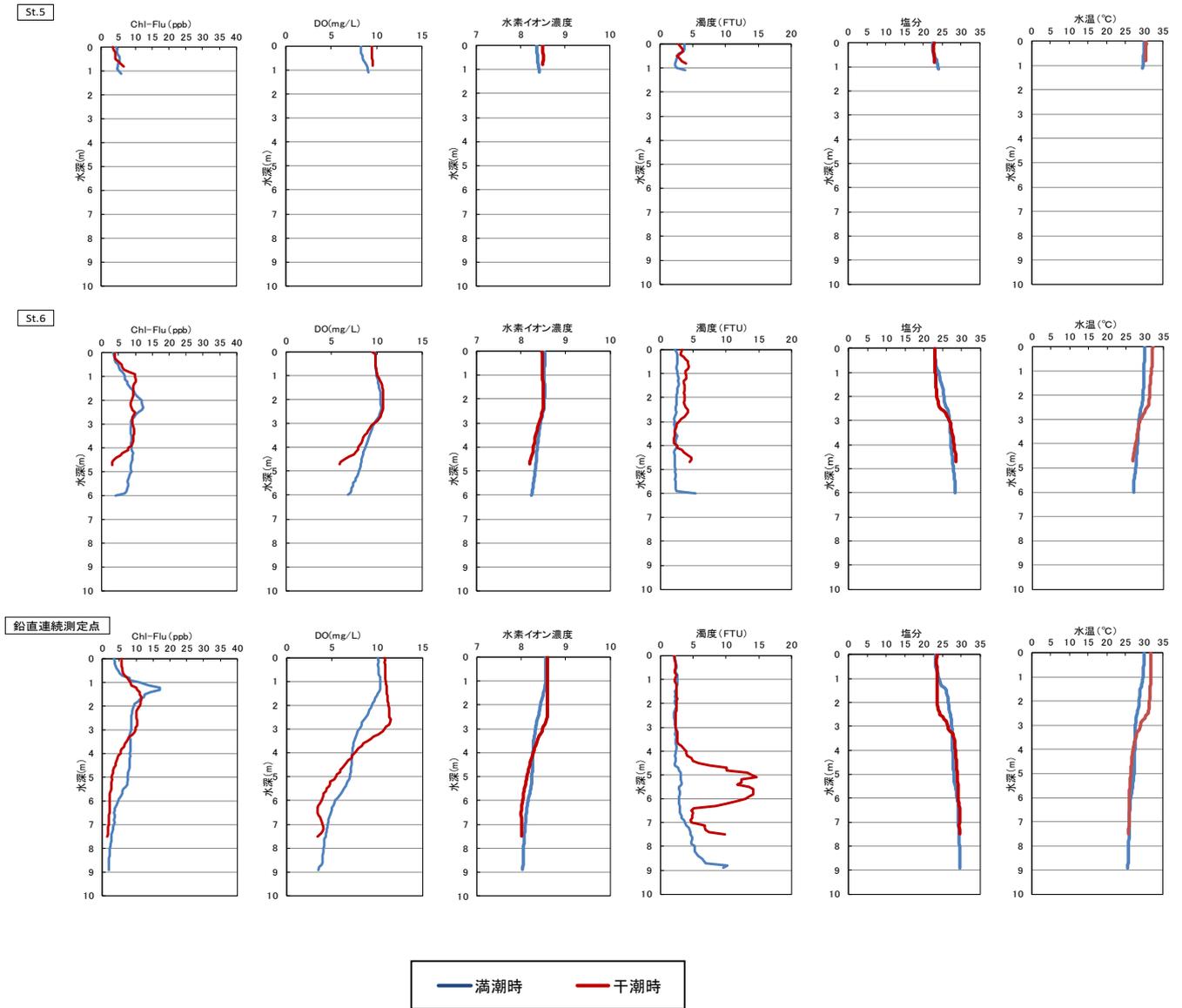


図 2.5.4 (2) 水質現地調査結果(平成 30 年度夏季)

2.5.2 クロロフィル (Chl-Flu)

クロロフィル (Chl-Flu) は、各季ともに、水深の深い St. 2、St. 3、St. 6、鉛直連続測定点で高くなる傾向が見られた。秋季、冬季では表層付近で、高い値となった。秋季は、上層と下層で概ね一樣の値であったが、St. 3、鉛直連続測定点で水深 6m 付近を境に低くなる傾向が見られた。また、夏季は地点により変化があるが、水深 1~3m で高い値となった。

2.5.3 DO

DO は、秋季、夏季に各地点で、水深が深くなるに従い低くなる傾向を示した。また、夏季に沖側の調査地点 St. 3 (干潮)、St. 6 (干潮) 鉛直連続測定点 (干潮) において、水深 3m 付近で大きく変化し、下層では 5mg/L 程度のやや低い値となった。

2.5.4 水素イオン濃度 (pH)

水素イオン濃度 (pH) は、概ね一樣な分布傾向であったが、夏季に表層でやや高い値となった。また、夏季に満潮時と干潮時との値に差が大きくなる傾向がみられた。

2.5.5 濁度

濁度は、春季、夏季の下層で高くなる傾向が見られた。春季、秋季の St. 3、St. 6 の下層では 10 を超える高い値となった。

2.5.6 塩分濃度

塩分は、秋季の St. 3 (干潮時)、St. 4 (干潮時)、St. 5 (両潮時)、鉛直連続測定点 (干潮時)、春季の St. 5 (干潮時)、St. 6 (満潮時) の表層において 20 未満と低くなっていた。これは河川水の流入が影響していると考えられる。

2.5.7 水温

水温は、おおむね鉛直方向に一樣となっていたが、夏季の、St. 3、St. 6、鉛直連続測定点で干潮時に上層と下層で 2℃程度の差がみられた。これは、日射によって表層付近の水が加温されたためと考えられる。